勇気と希望発信

スタッフも支援全力

喜び 分かち合いたい

大会長 有森 裕子さん

大会長を務める有森裕子スペシャルオリンピックス（SO）日本理事長、佐久間啓実行委員長、SO日本ドリームサポーターの2007年度ミス・ユニバース世界大会優勝者、森理世さん、元バスケットボール女子日本代表の萩原美樹子さん（福島市出身）にSOの魅力や福島大会への思いなどを聞いた。

猪苗代町で行われたトーチランの採火式・分火式。大会の成功を誓い合った＝昨年8月

―スペシャルオリンピックスの意義とは。

「知的発達障害を持っている方々にスポーツを楽しむ機会を提供することで、社会参加への流れをつくることはもちろんだが、競技の才能に気付いてもらおうというもの。また観戦する側にとっても、頑張っている選手の姿を通して、自分自身に秘められた可能性を見つめ直す機会にもなる。だからこそ『スペシャル』なのだと思う」

―本県での開催についてどう考えるか。

「東日本大震災が起きたことから、道のりは楽ではなかった。資金やボランティア集めにも時間がかかり、本当にできるのかと心配になったこともあった。でも、『絶対に開催すべきだ』と思わせてくれたのは福島の人たちの強い意志と行動力のおかげ。スポーツを通し、被災地である福島に希望と可能性を届けたいという思いが強かった」

―開催までに苦労したことは。

「原発事故による放射能への心配から、果たして福島で開催できるのかという心配の声もあった。それでも、全国大会を本県で実施することが復興への足掛かりになると、スペシャルオリンピックス本部も後押ししてくれて、昨年秋に開催を最終決定した」

「選手、スタッフともに全力で臨み、希望に満ちた大会にしたい」と話す有森さん

―県民にメッセージを。

「今大会のスローガンは『心強く、心豊かに、心ひとつに 心うつくしまふくしま』とした。これは福島だけではなく、日本全体に伝えたいメッセージだ。選手、スタッフともに全力で臨み、希望に満ちた大会にしたい。観戦していただいた福島の皆さんが、一歩でも前に進む力になることができれば幸いだ」

運営 全てボランティア

スペシャルオリンピックスは非営利活動で、大会の運営は全てボランティアと善意の寄付で行われる。今回も県内外から、15歳から80歳までの2038人のボランティアが参加し、選手とその家族、ボランティア、サポーターが一体となって大会をつくり上げる。

大会に向けては昨年1月に実行委を発足させたほか、同2月には郡山市と猪苗代町で競技を支える指導者を育成する雪上・氷上合同コーチクリニックを実施するなど、着々と準備を進めてきた。

開催に迫った本番を前に郡山市では25日と28日の2日間、ボランティアリーダーを対象にした研修会を開催した。まとめ役となるボランティアデスクを担当する猪苗代町の佐藤弘一さん（31）は日本青年会議所（JC）東北地区福島ブロック協議会からのボランティア参加。「JCで培ったボランティアの経験を生かし、大会がスムーズに運営できるようスタッフと協力して頑張りたい」と意気込み、大会を心待ちにしている。

大会本番を前に業務内容などを確認したボランティアリーダー研修会＝25日、郡山市

このほか大会を支援しているユナイテッド・スポーツ・ファウンデーション（猪瀬寛子代表理事）は24日、郡山市で開かれた選手代表らによる決意表明式の席上、寄付金を贈呈した。同団体は大会期間中、会場を盛り上げる応援ボランティアを募集している。応援ボランティアは、会場で同団体が用意する応援グッズを観客に配布し、率先して応援をリードするほか、競技終了後の清掃協力などを行う。希望者は同団体ホームページから登録できる。問い合わせは同団体（電話03・6854・0001）へ。

共に生きる社会訴え

「あらゆる人が共に生きていく社会づくりを福島から訴えたい」と話す佐久間さん

実行委員長 佐久間 啓さん

―選手、ボランティアともに冬季大会では過去最多となる。

「全国の選手から『福島ならぜひ来たい』との声をいただいた。選手には競技を楽しみ、満足できる成績を残していってほしい」

―どんな大会にしたいか。

「あらゆる人が共に生きていく社会づくりを、福島から強く訴えたい。応援に来てくれる方々にも、選手らの精いっぱい競技する姿を見て何かを感じ取ってもらえればうれしいと思う」

07年度ミス・ユニバース 森 理世さん

「日本が一つになって前に進むきっかけになれば」と話す森さん

―スペシャルオリンピックスの魅力は。

「昨夏、アテネ世界大会の応援に参加させていただいたが、開閉会式では約6万人が収容できるスタジアムが満員になるほどの熱気に圧倒された。その中で、多くのメダルを獲得した日本選手団を誇りにも思った。人間は、自分の持っている力や才能を一人で見つけることは難しいと思う。でも、このような大会があったからこそ自分の可能性に気付くこともある。それは観戦している側も同じで、ひたすらに頑張る選手らの姿は多くのことを私たちに訴えてくる」

新たな才能 発見の場

―県民へメッセージを。

「大会を前に福島を訪れ、多くの人が前を向いて元気に歩いている姿が印象に残った。全国の方が福島に観戦に来れば、きっと安心するはず。そして大会が、日本が一つになって前に進むきっかけになればと思う」

元バスケ女子日本代表 萩原 美樹子さん

―大会に関わったきっかけは。

「2004年に長野で冬季大会が開かれることになった際、『サポーターとして盛り上げてほしい』との要請をいただいたのが最初。初めて観戦した大会では、選手らが素直な感性で競技に真剣に取り組む姿に心を打たれた」

―出身地である福島での開催について。

選手の姿が力くれる

「現在の活動拠点は東京にあるが、震災後は福島のことを思わなかった日はない。避難所などで子どもたちと運動したりしてきたが、こういう状況で、それでも与えられた環境の中で生きていかねばならない現在の福島。そして、これはある意味、知的発達障害の人たちが生きていくことにも、もしかして通じるかもしれないとも思っている。だからこそ、アスリートの頑張りが福島の方々に勇気を与えてくれると思っている」

「アスリートの頑張りが福島に勇気を与えてくれる」と話す萩原さん

スポーツで絆深めて

ドリームサポーターのアテネ五輪競泳女子800㍍自由形金メダリスト、柴田亜衣さん スペシャルオリンピックスのアスリートから、私も元気をもらっています。アスリート、ボランティアはじめ大会に集う全ての皆さんがスポーツを通して絆を深め、笑顔でいっぱいになることを楽しみにしています。今こそスポーツの力を信じ、一つになりましょう。

競技日程

アルペンスキー

■会場：沼尻スキー場

◆2月11日（土） 予選
10:00～ 上級ジャイアントスラローム
11:20～ 中級ジャイアントスラローム
13:35～ スーパーグライド
14:15～ 初級ジャイアントスラローム
15:40～ グライド

◆2月12日（日） 決勝・表彰式
10:05～ 上級ジャイアントスラローム（10:35～表彰式）
10:50～ 中級ジャイアントスラローム（11:20～表彰式）
12:10～ スーパーグライド（12:40～表彰式）
12:55～ 初級ジャイアントスラローム（13:25～表彰式）
13:35～ グライド（14:05～表彰式）

スノーボード

■会場：沼尻スキー場

◆2月11日（土） 予選
10:00～ 上級ジャイアントスラローム
10:55～ 中級ジャイアントスラローム
11:55～ 初級ジャイアントスラローム
14:55～ スーパーグライド

◆2月12日（日） 決勝・表彰式
10:00～ 上級ジャイアントスラローム（10:30～表彰式）
10:30～ 中級ジャイアントスラローム（11:00～表彰式）
11:00～ 初級ジャイアントスラローム（11:30～表彰式）
13:10～ スーパーグライド（13:40～表彰式）

クロスカントリースキー

■会場：沼尻スキー場

◆2月11日（土） 予選
9:30 3kmクラシカルテクニック予選
9:50 5kmフリーテクニック予選（3kmに短縮）
10:50 4×1kmリレー フリーテクニック
11:20 100mクラシカルテクニック

◆2月12日（日） 決勝・表彰式
9:00 3kmクラシカルテクニック
9:30 5kmフリーテクニック
1kmフリーテクニック
10:50 4×1kmリレー フリーテクニック
11:20 100mクラシカルテクニック
12:40 表彰式

スノーシューイング

■会場：沼尻スキー場

◆2月11日（土） 予選
12:00 100m
12:30 50m
12:45 1600m
13:15 400m
13:30 800m
13:50 4×100mリレー

◆2月12日（日） 決勝・表彰式
12:00 100m
12:40 50m
12:50 1600m
13:20 400m
13:30 800m
14:00 4×100mリレー
14:30 表彰式

スピードスケート

■会場：磐梯熱海アイスアリーナ

◆2月11日（土）
14:20～14:25 予選55m
14:30～14:40 予選500m
14:45～14:50 予選25m
14:55～15:00 予選1000m
15:05～15:15 予選333m
15:20～15:30 予選111m
16:00～16:05 予選55m
16:10～16:20 予選500m
16:30～16:45 予選25m
16:50～16:55 予選1000m
17:00～17:15 予選333m
17:20～17:35 予選111m

◆2月12日（日）
8:45～ 8:55 決勝55m
9:00～ 9:15 決勝500m
9:25～ 9:35 決勝25m
9:40～ 9:45 決勝1000m
9:50～10:00 決勝333m
10:05～10:20 決勝111m
競技終了後に表彰式

フィギュアスケート

■会場：磐梯熱海アイスアリーナ

◆2月11日（土）
8:05～ 8:35 コンパルソリー レベルⅠ グループ1、レベルA グループ1
8:50～ 9:10 レベルⅠ グループ2、レベルA グループ2、レベルB グループ2
9:30～10:00 レベルⅡ グループ1・2
10:15～10:25 レベルⅢ レベルⅣ
10:55～11:20 フリー レベルⅠ グループ1
11:40～12:05 フリー レベルⅠ グループ2
12:25～12:45 フリー レベルⅡ グループ1
13:05～13:20 フリー レベルⅡ グループ2、レベルⅢ、レベルⅣ

◆2月12日（日）
11:00～11:25 コンパルソリー レベルⅠ グループ1、レベルB グループ1
11:35～12:00 レベルⅠ グループ2、レベルA レベルB グループ2
12:10～12:40 レベルⅡ グループ1・2
12:50～12:55 レベルⅢ レベルⅣ
13:10～13:30 フリー レベルⅠ グループ1
13:45～14:15 フリー レベルⅠ グループ2
14:30～14:45 フリー レベルⅡ グループ1
15:00～15:15 フリー レベルⅡ グループ2、レベルⅢ、レベルⅣ

フロアホッケー

■会場：猪苗代町総合体育館「カメリーナ」

◆2月11日（土）
9:30～12:00 予選ゲーム
13:00～17:00 決勝ゲーム

◆2月12日（日）
9:00～11:00 決勝ゲーム開始
12:00～14:00 メダル決勝ゲーム
13:00～15:00 表彰式（サブアリーナ）

熱いゲーム期待 フロアホッケー

観戦ガイド

メーン会場の猪苗代町総合体育館カメリーナで開かれるフロアホッケーには大会最多の192人、15チームが参加し、本県からも2チームが出場。フロアホッケーは雪がないところでもできる冬季競技で、毎回工キサイティングなゲームで会場が盛り上がる。

猪苗代町の沼尻スキー場で開かれる雪上競技では、アルペンスキーなど各競技で上級者から最近競技を始めたばかりの初級者まで、それぞれ自分のレベルで最大限の力を発揮する。

郡山市の磐梯熱海アイスアリーナで開かれる氷上競技には、スピードスケートとフィギュアスケートに計96人が出場。11日には、五輪金メダリストの米国・スピードスケート・ショートトラック選手、アポロ・アントン・オーノさんがアトラクションを披露し、競技に花を添える。

可能性信じ前へ

2月10日に開幕するスペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム・福島。アルペンスキーなど7競技に熟戦を繰り広げる ©Special Olympics Nippon

スペシャルオリンピックス

10日 本県で開幕

猪苗代・郡山で 日本冬季大会 アスリート結集

7競技に898人

知的発達障害者のスポーツの祭典、第5回スペシャルオリンピックス（SO）日本冬季ナショナルゲーム・福島は、猪苗代町と郡山市を舞台に2月10日、開幕する。同12日までの3日間にわたり、全国から898人の選手団が訪れ、アルペンスキーやスピードスケートなど7競技を繰り広げる。大会には県内外から2千人を超えるボランティアが参加し、県民を交えた幅広い交流が期待される。東日本大震災と東京電力福島第一原発事故を乗り越え、開幕まで秒読みとなった大会の見どころや関係者の熱い思いなどを紹介する。

県勢は65人が出場

本県初開催となるSO日本冬季ナショナルゲーム・福島は「心強く、心豊かに、心ひとつに 心うつくしま ふくしま」をスローガンとして、猪苗代町総合体育館カメリーナをメーン会場に開幕。同体育館のほか、猪苗代町の沼尻スキー場、郡山市の磐梯熱海アイスアリーナの3会場でアルペンスキー、フィギュアスケート、フロアホッケーなど7競技を繰り広げる。

スペシャルオリンピック日本の主催。知的発達障害者にスポーツトレーニングの成果発表の場を提供する全国大会で4年に一度開かれ、障害者の社会参加と自立支援の促進が狙い。

SOの競技会は性別、年齢、競技能力を基準に組分けし、最終的に競技能力が同程度の競技者同士が競い合うための「ディビジョニング」という独自のルールがあるのが特徴の一つ。33都道府県から冬季としては過去最多の8歳から54歳までの898人（選手576人、コーチ322人）が参加し、本県からはスノーボード競技を除く6競技に選手団65人が出場する。冬季大会が東北で開催されるのは宮城、山形県に次いで3番目。大会は来年1月に韓国で開かれるSO冬季世界大会・平昌の日本選手団選考も兼ねる。

「入場行進」「ふるさと」

安積黎明高合唱部

開会式は10日午後3時から猪苗代町総合体育館で行われ、約2千人が参加予定。全国トップクラスの実力を誇る安積黎明高合唱部が選手団入場行進で「ふるさと」を歌い上げるほか、郡山市出身の俳優西田敏行さんのミニライブも行われ、式典に花を添える。このほか女優名取裕子さんが本県選手沢田さゆりさんの詩を朗読する。

開会式では福島市の詩人和合亮一さんが、書き下ろしの詩を朗読する。

「アスリートの頑張りが福島に勇気を与えてくれる」と話す萩原さん

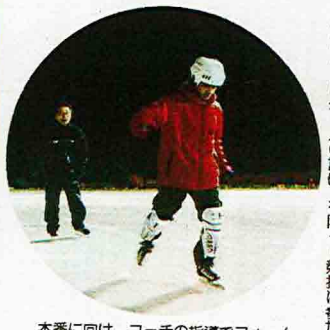
大会ロゴマーク

強く、豊かな心を持つ元気なアスリートが美しい白銀を舞台に疾走、活躍する姿をデザイン。アスリートが福島で心を一つにし、輝いていく姿を象徴している。

Special Olympics Nippon National Winter Games FUKUSHIMA 2012

最高の滑りで優勝目指す

スピードスケート 遠藤 弘之さん



本番に向け、コーチの指導でフォームなどを確認する遠藤さん㊧ ＝郡山スケート場

県内からは、選手43人、コーチ21人、団長1人の計65人の選手団がスノーボードを除く6競技に参加。震災や原発事故に負けず、被災地の逆境をはねのけて、目標や夢に向かって積み重ねた練習の成果を披露し、県民に勇気と感動を届ける。

郡山市で開かれた決意表明式では、吉田一也団長が「選手が最高のパフォーマンスを発揮できるよう一生懸命頑張りたい」と意欲をみなぎらせ、選手代表の遠藤弘之さん（34）が「一生懸命練習して頑張る」と抱負。

スピードスケートに出場する遠藤さんは昨年11月から本格的に競技を始め、週2回のペースで郡山スケート場でトレーニングに励んでいる。

競技は本宮市の通所施設でお菓子作りに取り組む遠藤さんは「仲間も見に来てくれるので、いい滑りをして優勝目指して頑張りたい」と笑顔を見せる。26日の練習では、同競技に出場する遠藤進さん（22）と共に、コーチからフォームやスタートの仕方などの指導を受けた。

また、大会最年少となる猪苗代町の千里小2年、高久悠介君（8）、猪苗代養護学校小学部2年、佐藤修也君（8）が共にアルペンスキーに出場する。

Q スペシャルオリンピックスって何？

A 知的発達障害者のための国際スポーツ組織です

スペシャルオリンピックスは知的発達障害のある人たちにさまざまなスポーツトレーニングと、その成果の発表の場である競技会を、年間を通じて提供している国際的なスポーツ組織。オリンピック形式の夏季、冬季32競技を実施。世界170カ国、370万人が参加。1962年、故ケネディ大統領の妹が自宅の庭を開放し、知的発達障害のある人たちを招いてデイキャンプを行ったのが始まりとされる。

Q スペシャルオリンピックス名称なぜ複数形？

A 世界中で活動していることを意味しています

「オリンピック」の後に複数形を表す「ス」が付いているのは、日常的なトレーニング（練習）から世界大会まで、さまざまな活動が年間を通じて世界中で行われていることを意味している。

また、全員が表彰台に上がるのは、アスリート本人が大会で挑んだ自身への挑戦や勇気に対し、彼らを支える大勢の人たちがたたえることで、アスリートの成長や自信につながると考えているため。